

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立双葉西小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／理科に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部分」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語は、全国の平均正答率を大きく上回り、算数・理科は全国の平均正答率を上回っています。
- ・国語では、「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の分野に優れ、特に「物語を読み、登場人物の気持ちや相互関係を着目して、物語の全体像を想像したり表現の効果を考えたりする」ことが、大きく全国の平均正答率を上回っています。一方、「記述式」の分野は全国と同様苦手分野となっており、「意図を明確にして、自分の考えをまとめる」ことに課題がみられます。
- ・算数では、「数と計算」や「データの活用」の分野に定着がみられ、特に「目的に応じて数量の關係に着目し数の処理の仕方を考察する」や「目的に応じてデータの特徴や傾向を捉え考察する」ことがよくできています。一方、「図形」や「変化と関係」分野は苦手傾向にあり、特に「割合を用いて2つの数量關係を考察する」や「図形の意味や性質を基に作図するプログラムをつくる」ことに課題がみられます。
- ・理科では、「地球を柱とする領域」に定着がみられ、特に「観察などで得た結果を分析・解釈する」ことがよくできています。一方、「生命を柱とする領域」「エネルギーを柱とする領域」では「昆虫の体のつくり」や「日光の進み方」についての定着に課題がみられます。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
家庭での正しい生活リズム、自己肯定感、いじめへの認識、集団活動や学習活動への意欲ややりがい感、友達の考えを受け止めるなど、多数の項目において全国より良い傾向がみられます。また、地域の大人との関わりや地域への関心についての数値が高いのは、学校を支えてくれる「学校応援団」のさまざまな活動を児童が受け止めている結果と思われる。
- ・課題となる項目
ICT機器の使用頻度について「ほぼ毎日」と答えた割合が、全国に比べ少し低い数値を示しています。学校や家庭での効果的な端末活用と道具として日常的にどのように使用していくか、これからの課題と言えます。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・ICT機器を活用し、主体的・対話的で深い学びのできる授業づくりに取り組みます。
- ・児童の思考力、判断力、表現力を伸ばすために、図やグラフ、資料等を提示しながら自分の考えや思いを伝え合う場面を意図的に設定し、学年をとおして「学び合いの授業」づくりに引き続き取り組んでいきます。
- ・国語では、読書を推進するとともに、ニュースや新聞記事から必要な情報を読み取り、根拠や意図を明確にして自分の考えを書いたり、伝えたりする学習活動を進めていきます。
- ・算数では、具体物・半具体物を操作しながら図形を構成したり分解したりして、図形についての見方や感覚を豊かにする学習活動を進めていきます。
- ・日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、身の回りの自然や社会事象について考えさせたりしながら、学習したことが定着するように取り組みます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・ゲームやテレビ、スマートフォン等の使用に関わる家庭ルールを決め、しっかりと守らせましょう。
- ・朝食の摂取、睡眠時間の確保、家庭での読書や学習など今後も児童の安定した生活習慣づくりをお願いします。